

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	総合政策学部
大項目	7 国際交流
中項目	
小項目	7.0.1 国際交流(国内外における教育研究交流)についての方針を明示しているか。
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性
小項目	7.0.2 国際交流(国内外における教育研究交流)を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性 (KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況(院)

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 外国人教員(ALEを含む)の比率(現在約30%)を維持する	→外国人教員比率	A	A	A	A	A
2. 外国人留学生を積極的に受け入れる	→外国人留学生数	A	A	A	A	A
3. ミレニアム開発研究センターを活用した教育研究、社会貢献活動を積極的に推進する	→ホームページを利用した各種関連する情報の発信の有無	D	D	D	D	D
4. 国際的な学生ボランティア活動、インターンシップ活動への学生参加を積極的に支援する	→海外への学生の派遣人数、ボランティア団体のホームページによる活動の情報発信の有無	B	B	B	B	B
5. 国連ボランティア計画による国連ボランティア学生の育成と参加を促進する	→国連ボランティア参加者数、国連セミナー参加者数、ボランティア活動、その育成のための教育プログラムのホームページによる情報発信の有無	B	B	B	B	B

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 新たな教員採用の時点で、一定の外国人教員比率を維持するように努めてきている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 外国人教員の割合は、31.0%(2014年5月現在)で、引き続き高い比率を維持している。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か これまでの方針を維持、拡充していきたい。	☆
		その他	☆

目標2	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 新入生の入学定員のうち、外国人留学生の割合を一定の高い割合に保つ方針を維持している。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 外国人留学生の割合は4.3%(2014年5月現在)で、引き続き高い比率を維持している。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か これまでの方針を維持、拡充していきたい。	☆
		その他	☆
			☆
目標3	D	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか ミレニアム開発研究センターは廃止された。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 現在、同センターを通じた情報発信は行われていない。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か	☆
		その他	☆
			☆
目標4	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 国際的な学生ボランティア、インターンシップ活動については、学部ホームページ等を通じて情報発信を行ってきている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 学生主体の国際ボランティア活動は活発に行われており、引き続き学部として積極的に支援している。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 学生の国際インターンシップ活動については、今後、学部としても支援を検討していく。	☆
		その他	☆
			☆
目標5	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 学部パンフレット、ホームページ等を通じて情報発信を行ってきている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 国連ボランティア(UNV)に学生を継続的に派遣している。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 2013年度から、国連ユースボランティアの新しい枠組みのもとで、首都圏の5大学と連携し、更に、活動を拡充している。	☆
		その他	☆
			☆
備考			☆

《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【総合政策学部】			単位	2009	2010	2011	2012	2013	2014	備考	
指標1	国際交流協定締結機関数		機関	3	3	3	3	3	3	5/1現在	
指標2	国際交流協定締結国数		国	2	2	2	2	2	2	5/1現在	
指標3	海外からの受け入れ学生数	国数	国	—	—	—	—	—	—		
		外国人留学生	正規	人	123	130	123	124	120	104	・5/1現在(学校基本調査) ・正規とは学位取得目的
			交換	人	—	—	—	—	—	—	・累計数 ・交換は正規以外とする。
		外国人留学生在籍学生比率	正規	%	5.4	5.6	5.1	4.9	4.9	4.3	外国人留学生÷在籍学生数
			交換	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
その他(セミナー等による受け入れ)	人	—	—	—	—	—	—	—			
指標4	海外への派遣学生数	国数	国	—	—	—	—	—	—	累計数	
		人数	長期	人	43	37	43	55	31	—	・累計数 ・1学期以上を「長期」
			短期	人	46	33	36	47	71	—	・累計数 ・1学期未満を「短期」
		在籍学生比率	長期	%	1.9	1.6	1.8	2.2	1.3	—	海外へ派遣した学生数÷在籍学生数
			短期	%	2.0	1.4	1.5	1.9	2.9	—	
指標5	海外からの受け入れ教員数		長期	人	1	1	0	0	0	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
			短期	人	2	1	1	3	0	・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標6	海外への派遣教員数		長期	人	1	1	0	2	3	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
			短期	人	85	118	108	93	82	・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数		人	4	3	2	3	5	・累計数 ・春・秋の合計		
指標8	外国人教員比率		%	34.8	31.8	30.9	31.4	33.3	31.0	・5/1現在	

※指標3「海外からの学生の受け入れ」の「外国人留学生」(正規)は2009年度までは1年間の累計数。2010年度以降は当該年度5月1日現在の数字。(学校基本調査に合わせた。)

※指標7「国連ボランティア(UNV)の参加者数」は2013年度から国際社会貢献活動参加者を含む。また国連ボランティアは2013年度より国連ユースボランティアとなった。